



OMURA Chamber Ensemble

パトロネージュ通信

Vol. 15

2011年12月 発行

特集



「第13回定期演奏会」開催まで間もなく！今回は定期演奏会特集でお届けします。
まずはゲストにお迎えするコロンえりかさんから届きましたみなさまへのメッセージです。

松原勝也先生とOMURA室内合奏団の皆様と、モーツアルトのモテットを演奏するお話を頂いた時アレルヤ！と心躍りました。人間の祈りを取りなすマリアへ捧げられたこの曲には「暗闇の夜が去り、太陽が輝く」という歌詞があります。今年は日本にとって大変な一年でしたが、クリスマスを前に、音楽がまた希望を灯してくれますよう願っています。皆様との再会を楽しみにしております！

コロンえりか



ベネズエラ生まれ。聖心女子大学・大学院で教育学を学んだ後、英国王立音楽院へ留学。声楽科修士課程をファーストクラスで卒業。現在は声楽家として、さらに駐日ベネズエラ大使夫人として様々な活動を行っている。OMURA室内合奏団とはメサイアのソリストとして、又、ティータイムコンサートなどで共演。日本語、英語、フランス語、スペイン語（関西弁も話せるとか）が堪能で、学生時代にはバックパッカーで長崎を訪れたというエピソードも。その際に浦上天主堂の「被ばくのマリア」と出会い、作曲家である父エリック・コロンによる「被爆のマリアに捧げる贊歌」が生まれる。この作品は長崎各地の教会はじめロンドン、パリ、ブリュッセルでも平和へのメッセージとして演奏されている。



OMURA室内合奏団との過去の共演



2005年五島で開催の「しま」の教会音楽コンサートにも出演頂きました。写真は青砂ヶ浦教会での様子。このほか福江文化会館ではヘンデル「メサイア」のソプラノソロを務めて頂きました。



History
2008年「第7回定期演奏会」ではフォーレのレクイエムを共演。天使のような歌声で魅了してくださいました。「ピエ・イエズ」は涙して聴くお客様もいらっしゃいました。

Mendelssohn メンデルスゾーンを紐解く!



OMURA室内合奏団では、長年にわたって「メンデルスゾーン・チクルス」を行っています。今回12月はシンフォニア8番と名曲「イタリア」をお届けします。メンデルスゾーンってどんな人なんだろう。ぼく、ハットくんと一緒に紐解いてみましょう。



◆フェリックス少年

突然ですが、もし自分が14歳だったら、クリスマスプレゼントには何が欲しいですか?

フェリックス少年がおばあさまからもらったのは、なんとバッハのマタイ受難曲の写譜スコア! それもそのはず、その時にはすでに100を超える作品を生み出していたのですから。

フェリックス・メンデルスゾーンは1809年にドイツハンブルグで、裕福なユダヤ人銀行家の子として生まれます。メンデルスゾーン家は芸術や学問に強い関心を払っていて、社交の中心として科学者や芸術家が集り、和やかな雰囲気の中で音楽会が開かれるという、たいへん知的な環境の中で育ちます。

音楽家のなかではめずらしくお金持ち! というイメージのメンデルスゾーンですが、ほんとにすごかったようで、ハンブルグから引っ越ししたベルリンの郊外の屋敷は、敷地が何千坪とか… フェリックス少年は学校をやめて家庭教師につき、たくさんの科目を学ぶことになりました。ラテン語、ギリシャ語、イタリア語、英語、フランス語、数学、スポーツ、絵画、そして音楽という英才教育フルコース。おそらく、幼い頃から育まれた幅広い教養が多才で作曲家だけにとどまらない活動へつながっていました。なかでも絵画は玄人はだし、そして音楽は最初はピアノ、ほどなくして作曲の才能で頭角を現します。

初期のピアノ曲、OMURAでも毎回のように演奏している弦楽のための交響曲は自宅での日曜音楽会のために作られた作品ですが、前述したようにプライベートな会といえども、一流の音楽家たちが集まるこの場で大変な人気を呼び、神童としてもてはやされました。そして、10代のメンデルスゾーンは音楽家の道にすすむことになるのです。

◆作曲以外の功績

メンデルスゾーンは、作曲以外にも大きな功績を残しています。

「バッハ、シューベルトの復興」

バッハの死後、すっかり人々から忘れられていたマタイ受難曲を復活演奏したことによって、全ヨーロッパにおけるバッハの復興のきっかけとなりました。今まで続く「やっぱりバッハってすごい!」というのは、実はメンデルスゾーンが掘り起こしたもの。

そして、この出来事で20歳のメンデルスゾーンの名声も高まり、また、友人シューマンが発見したシューベルトの交響曲第8番をやはり復活演奏し、シューベルト復興の足がかりとなりました。



「ライブツィヒ音楽院をつくる」

1843年に自ら資金を集め音楽院を開校。それまでの音楽学校といえば、専攻実技のみを学ぶというスタイルがほとんどだったのですが、メンデルスゾーンは音楽理論や作曲、室内楽といった総合的な音楽大学を目指し、現在の音大の先駆けとなるものをつくりました。

ちなみに朝7時から始まり平均拘束時間12時間、とっても厳しかったそうです(笑)

「昔のものも、良いよね」

その当時の音楽界では古い作品はあまり演奏されず、もっぱらその時代の音楽が演奏されることが多かったのを改め、積極的にベートーヴェン、ハイドン、モーツアルトといった古典クラシック作品をピアノ、あるいはオケで演奏し、紹介しました。

当たり前ですが録音なんてありませんから、頼りになるのは楽譜だけ。しかも誰も演奏したことのない作品ばかり…。それを広めて現在につなげてくれたおかげで今のクラシック音楽文化が形成されているといっても過言ではありません。

「指揮者、メンデルスゾーン」

ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団の指揮者に就任し、始めて指揮棒を使用した指揮法を確立し、オーケストラを手足のように操りました。

膨大なスコアを全て記憶し本番では完全暗譜で指揮を行い、そのスタイルはあまりにも格好良かったため、彼の指揮法はあっという間に広まったそうです。それ以前にも指揮者は居ましたが、たいていコンマスやソリストが合図を出すという程度で、メンデルスゾーンが細くしなやかな棒を手に音楽を紡ぎだす様子は、華麗で特別な存在感を放ち、結果「指揮者」なる音楽家の存在価値が高まったとか。

現在の指揮者の祖先は、疑いなくメンデルスゾーンであるそうで、「棒」を振ってメシを食っている人はみんな彼に感謝しなければならない、とまで言われています。

…なるほどなるほど。これは定期演奏会がさらに楽しみになってしまった。ちなみに「イタリア」は彼が21歳のイタリア旅行中に書きはじめられたもの。ヴェネツィア、フィレンче、ローマ、ナポリ、ミラノをめぐったそうです。

たしかにこの曲は青空に飛び立つような陽光きらめくイタリアの風景がうかぶ第一楽章に始まり、ナポリの葬式を思わせる第2楽章、流暢に流れる優雅な第3楽章、そしてローマの舞曲サルタレロを取り入れた第4楽章が特徴的。

みなさんもメンデルスゾーンの作品をたっぷりと楽しんでくださいね!



(文章: クラリネット山田 芳美)

第13回定期演奏会

日 時 2011年12月23日〈金・祝〉
14:00開演 (13:30開場)

会 場 シーハットおおむら・さくらホール

出演: 松原 勝也 (指揮・ヴァイオリン)、コロンえりか (ソプラノ)
OMURA室内合奏団
曲目: メンデルスゾーン/弦楽のためのシンフォニア第8番ニ長調
モーツアルト/モテット「踊れ、喜べ、幸いなる魂よ」
メンデルスゾーン/交響曲第4番イ長調「イタリア」
♪13:30からロビーコンサートも予定

芸術監督だより

クリスマスの想い出

クリスチャンではない私のクリスマスの想い出といえば、何と言ってもニューヨークでの様々な光景が走馬灯のように巡りめぐります。

マンハッタンにあるロックフェラーセンターに飾られた巨大なツリー。その下にあるアイス・スケートリンクで楽しそうに滑っている人たち。五番街に並ぶ店のしゃれた飾りつけのウインドウ。友人宅でのツリー・トゥリミング、つまり、もみの木のツリーの飾りつけを皆でやったこと。

子供を早く寝かせて、ツリーの下に置いたサンタ・クロースに代わっての思い思いの沢山のプレゼント。イギリスの伝統料理、ミンツパイの美味しかったこと。ブルックリン・ハイツにあったその家から、健在であったワールド・トレード・セン

ターや、摩天楼などが林立する豪華な夜景を眺めながら傾けたホット・ワイン。25日、待ちきれずに早起きした子供と一緒に開けた豪華なプレゼント。etc, etc, etc. (これは「王様と私」の中の王様のセリフ)

来る12月23日のコンサートは、クリスマス・イヴの前夜祭ともいえましょうか。モーツアルトのモテット「踊れ、喜べ、汝幸いなる魂よ」を歌ってくれるコロン・えりかさんは、いまや駐日ベネズエラ大使夫人で一児の母。大村に来る一週間前にはロンドンでメサイアを歌っています。彼女の清らかな歌声がさくらホールに響きわたる頃、ご主人の大使は天皇陛下の誕生日祝いで宮中へ参内されていることでしょう。

大村でのコンサートを優先してくれたえりかさんの歌声は、メンデルスゾーンの交響曲「イタリア」と合わせて、皆様への心をこめたクリスマス・プレゼントです。

ぜひご来場いただいて、この素敵なプレゼントをお受け取りください。

村嶋 寿深子

OMURA Chamber Ensemble Report



●前田 純美加(ヴァイオリン)

9月17日(土)～19日(月)。OMURA室内合奏団アンサンブルが対馬にお邪魔して「しまの夢飛行コンサート」3会場で演奏してきました。出演はヴァイオリン齊藤享・前田純美加、ヴィオラ池田文子、チェロ光田聰子、フルート永留結花、ファゴット種口敬明という愉快な仲間たち。

10周年を迎えたORCプレゼントコンサート。対馬への移動はもちろん飛行機。

初日は出発前に長崎空港ロビーでのコンサートで、これは「ながさき音楽祭2011」の最初のイベントもありました。ご近所の方、遠方からお越しの方などのお客様の温かい眼差しに包まれ、永留さんの流暢なMCを挟みながら、クラシックや映画音楽中心のプログラムだった中で、「長崎は今日も雨だった」を素敵に歌い上げた種口さん。「トリッヂ・トラッヂ・ボルカ」の演奏中にも絶妙なタイミングで紙テープを投げ放って、サプライズ満載のコンサートは盛り上りました。そして最終便で対馬へ。35分であつという間に到着。

翌日は上対馬総合センター文化ホールで演奏。お子様連れのお客様もたくさんご来場くださいました。コンサート中、お客様へ向けてヴィヴィアルディー「四季より『秋』」の曲解説をしていたはずの齊藤さんの話は、いつの間にか大好きなお酒の話へ…。対馬の美味しい焼酎を語らずにはいられなかったようです。さておき、アンコールの拍手にお応えして「上に向いて歩こう」を演奏しました。終演後、管楽器の2人は、地元の高校ブラスバンド部の指導。その交流もまた楽しそうでした。

3日目は対馬空港ロビーにて。空の便でのご出発の方が多く、通路を塞ぎそうなほどのお客様に囲まれての演奏となりました。リクエストいただいた「長崎は今日も雨だった」を再演。全プログラムを終了して、アンコールの大きな拍手をいただきました。

ORC オリエンタルエアブリッジ プレゼンツ 「しまの夢飛行コンサート(対馬)」編

そして飛行機に乗り込み長崎空港へ。みな元気に帰って参りました。その元気の源はきっと対馬の美味しいお食事とお酒ですね。

施設に保護されているツシマヤマネコにも会うことができて、素敵な演奏旅行となりました。地元の皆様、スタッフの方々に本当に感謝です。



(写真は上対馬総合センターでのコンサートの様子)

	「しまの夢飛行コンサート」は10月に五島、11月には壱岐でも開催されました。学校、廃校を利用した美術館、空港など様々な場所で音楽を通じた素敵な出会いがありました。対馬、五島、壱岐のみなさんありがとうございました。
9/17-19(対馬)	出演：齊藤 享・前田 純美加(ヴァイオリン)、 池田 文子(ヴィオラ)、光田 聰子(チェロ)、 永留 結花(フルート)、種口 敬明(ファゴット)
10/14-16(五島)	出演：齊藤 享・前田 純美加、池田 文子、田辺 清士(チェロ)、 永留 結花、池田 祐希(ファゴット)
11/17-19(壱岐)	出演：中西 弹(ヴァイオリン)・前田 純美加、池田 文子、 田辺 清士、永留 結花、池田 祐希

団員リレートーク クラリネット編

メンバーによるリレートークの第6回目は
坂口直子さんがクラリネットについてお話しします♪



坂口直子 (クラリネット)

「パパからもらったクラリネット」で有名なクラリネット。どんどん屋さんで吹かれている黒い楽器というとおわかりでしょう。

18世紀初め、縦型の笛で1枚のリード(葦を削った平らなもの)を使って音を出す「シャリュモー」という円筒形の民族楽器に、2つのキーを取り付けることによって、高音まで出せるようになりました。この音色が、バロックトランペットの輝かしい「クラリーノ」の音域に似ていたために「クラリネット」と名付けられました。

モーツアルトやハイドンの後期の作品で、はじめてオーケストラに一般的に用いられるようになりました。他の木管楽器とするとずいぶん遅れた登場です。この頃の楽器は5つのキーし

かないツゲ材製で、19世紀に入りキーの改良がさらに進み、ようやく現在の黒檀製のものができました。最近では原木保護のため、今まで使用できなかった木材をパウダー状にして圧縮してできた新しい素材のものも使用されています。

音域によって、低音は幅広い豊かな音をもち温厚さから不気味まで、中音は透明感があって明るく、高音は鋭い音で悲鳴に近い効果もあるなど、さまざまな個性をもっています。この音色の違いにより第1クラリネットと第2クラリネットがあたかも異なる楽器のような扱い方をされることもあります。

昔は、曲の調性に合わせ長さの違う楽器をそれぞれ使っていました(笑)が、持ち運びが大変なこともあります。現在オーケストラでは2種の楽器を使っています。

また、モーツアルトは、ひとりの名手に出会い「五重奏曲」「協奏曲」などクラリネットの名曲を書いています。ぜひ、一度聴いていただけて、クラリネットの魅力に触れてみてください。

演奏会
情報

12月も色々なところにお邪魔します♪ぜひお越しください。

みらい長崎ココウォーク「もりの音楽会」

料金 無料

日時: 2011年 12月11日(日)

①13時00分~13時30分 ②16時00分~16時30分

出演: 松浦 知佳(ヴァイオリン)、太田 さあり(ヴァイオリン)、長嶋 拓生(ヴィオラ)、下田 直子(チェロ)、山田 芳美(クラリネット)

長崎空港クリスマスコンサート

料金 無料

日時: 2011年 12月17日(土)

①17時00分~17時30分 ②18時00分~18時30分

出演: 永留 結花(フルート)、松浦 知佳(ヴァイオリン)、長嶋 拓生(ヴィオラ)、田辺 清士(チェロ)

図書館でクリスマスコンサート

料金 無料 (未就学児童の入場も可)

日時: 2011年 12月18日(日)

11時00分~11時45分

出演: 永留 結花(フルート)、クリピタ 恵美子(ヴァイオリン)、種口 敬明(ファゴット)、濱野 久子(ピアノ)

パトロネージュの皆様のご意見・ご質問を募集しています

- ◎OMURA室内合奏団団員へのご質問
- ◎パトロネージュ通信へのご意見 ◎音楽や楽器の気になる疑問!!
- ◎「パトロネージュ会員さんこんにちは♪」コーナーへのご連絡など

などなど、OMURA室内合奏団に関するご感想やご意見、ご質問を募集しております。

宛 先 〒856-0836 大村市幸町25-33
シーハットおおむら内「パトロネージュ通信」係
メール omurapatron@gmail.com 団員一同、お待ちしております♪

編集後記

◎10月・11月とORCプレゼンツしまの夢飛行コンサートで、五島と壱岐に伺いました!天気の悪い日もありましたが、温かい皆様に囲まれて、本当に幸せな時間を過ごさせて頂きました♪ご来場下さった皆様、関係者の皆様、本当にありがとうございました!(池田)

◎もりだくさんのパトロネージュ通信、いかがでしたか?今年は会員の皆さんと直接お話できる機会が多くて、嬉しかったです。来年もさらに、皆様と近い距離にある合奏団としてがんばりますので、応援よろしくおねがいします!(★山田)

◎シーハットおおむらの事務所内でも少しずつクリスマスの飾りつけを見るようになりました。定期演奏会終演後は今回も会員様との交流会を開催いたします。出演者との交流を楽しんで頂ければうれしいです。ぜひ ご参加下さい♪(事務局H)

OMURA室内合奏団の最新情報♪ <http://ocenagasaki.blog25.fc2.com/>

●発行/財団法人大村市振興公社 〒856-0836 大村市幸町 25-33 ●TEL: 0957-20-7207 ●E-mail: oce@seahat.jp